

## 異なる方法で樹上脱渋処理した露地栽培‘平核無’および加温促成栽培‘刀根早生’の果実品質

播磨 真志

和歌山県農林水産総合技術センター 果樹試験場かき・もも研究所  
649-6531 和歌山県紀の川市粉河

Fruit Quality of Open-field-cultured ‘Hiratanenashi’ and Forcing-cultured ‘Tonewase’ Japanese Persimmon Treated with Different on-tree Removal of Astringency

Shinji HARIMA

*Laboratory of Persimmon and Peach, Fruit Tree Experiment Station, Wakayama Research Center of Agriculture, Forestry and Fisheries  
Kokawa, Kinokawa, Wakayama, 649-6531*

### 摘 要

露地栽培‘平核無’および加温ハウスによる促成栽培‘刀根早生’への樹上脱渋処理の処理時期および処理開始から終了までの処理時間帯が果実品質に及ぼす影響について、ポリ袋の被袋が簡便でヘタ部を枯らさない「ヘタ出し法」による処理方法を従来のヘタ部まで被袋する「慣行法」と比較、検討した。

1. 樹上脱渋処理後の落果は、露地栽培‘平核無’ではいずれの処理時期および処理方法とも少なかったが、促成栽培‘刀根早生’では慣行法による収穫 28 日以前の処理で多発した。

2. 露地栽培‘平核無’および促成栽培‘刀根早生’ともに同処理時期間で比較すると、果実重はヘタ出し法が慣行法よりも大きかったが、果皮色、糖度、果肉硬度および褐斑発生程度はほぼ同等であった。現行の露地栽培‘平核無’の樹上脱渋処理適期である 9 月 12 日および促成栽培‘刀根早生’の処理適期である収穫前 16 日より早く処理した場合、いずれの品種、処理方法とも果実重が小さくなり、促成栽培‘刀根早生’では果実の渋味消失が若干不完全になった。

3. 促成栽培‘刀根早生’の慣行法処理では、8 時間以上処理した区で落果が多発したが、露地栽培‘平核無’ではいずれの処理方法、処理時期とも落果が認められなかった。

4. いずれの処理方法とも 4 時間の処理では両品種の果肉中の褐斑発生および渋味の消失が不完全であった。

5. 以上の結果から、ヘタ出し法による樹上脱渋処理は、和歌山県内の露地栽培‘平核無’では 8 月中旬以降、促成栽培‘刀根早生’では収穫前 20 日以降から、いずれも 8 時間程度の処理が必要であると判断された。